

マンション業界、人材争奪戦 修繕技術者は困り込み

マンション管理業界で賃金が相次ぎ上昇している。築年数が古い建物が増え、修繕担当者の求人が急激に伸びている。特に技術者は新築物件と人材確保で競合しやすい。

人手不足で改修が遅れば、政府が目指す中古住宅市場の活性化の実現が遠く可能性がある。「新築工事と人の取り合いになっている」。マンション管理大手の東急コミュニティーの修繕担当者は苦笑する。同社はマンションの修繕工事に必要な建築士や施工管理技士といった資格を持つ技術者に、月1万円程度の資格手当の支給を始めた。

年収を50万～100万円引き上げることも検討中だ。「大手を中心にこの2～3年、実際に年収を50万～100万円上げた求人は増えている」(エン・ジャパン)

技術職の人手不足が著しいのは、修繕期を迎えたマンションが次々と増えるためだ。国土交通省によると築30年超の分譲マンションは2017年末で184万戸。5年で44%増えた。2027年には351万戸になる見通しだ。

情報提供: 日本経済新聞社



国産ヒノキの室内引戸シリーズを発売



ユダ木工は7月20日、国産ヒノキを使った室内引戸「地檜建具シリーズ」を発売した。

「引戸本来のシルエットを最大限活かすデザインにこだわった」という木製引戸。

堅格子、腰付ガラスなど5デザイン。仕上げは、上小無節無塗装とベンガラ風水性塗装の2タイプをラインアップした。引戸バリエーションは、通常片引き、ポケット片引き、アウトセット片引きなど。

片引戸16万1000円～。

情報提供: 新建ハウジング

「次世代ガルバリウム鋼板」を採用した外装材が登場

旭トステム外装は8月1日、金属外装材「Danサイディング ニュースタANDARDシリーズ」に、**従来のガルバリウム鋼板の3倍の耐食性が期待できるという素材・SGLを使った「スパンサイディングS」を追加する。**

新商品は、遮熱性フッ素SGL鋼板単色塗装品。

SGLは、「次世代ガルバリウム鋼板」といわれる日鉄住金鋼板のめっき鋼板で、**これを業界で初採用したことにより、耐食性を向上し「赤さび・穴あき15年保証」を実現した。**

また、芯材にはポリイソシアヌレートを使って防耐火性能を高めたことで、準耐火建築物にも対応。フッ素塗料により塗膜が長持ちする(塗膜10年保証)。

4色。10尺品と12.5尺品の2サイズ。5424円/m²。



スパンサイディング S

情報提供: 新建ハウジング